

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド
実績報告書(事業助成用)

平成18年10月30日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者
三菱UFJ信託銀行株式会社 あて

住 所：〒 501-3993
岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
法 人 名：特定非営利活動法人
ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
代表者名： 飯 尾 良 英 印

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成17年度(前期・後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

(民間)福祉サービス総合相談事業「福祉なんでも相談」
(継続事業・1年目)

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立準備助成	立ち上げ時事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成
----------	-----------	---------	----------

3. 助成金額

既交付金額	2,543千円
実績額	1,907千円
差し引き額	636千円

4. 事業実施期間

平成17年 10月 1日 ~ 平成18年9月30日 (3年度事業の1年目)

5 . 実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況（実施日時、場所(住所)、対象者、参加者等）

1 . 情報整理のためのワークショップの開催

利用者・県民にとってどのような情報が必要か、児童・高齢者・障害者の3分科会を作って、情報内容の整理を行うためのワークショップを開催した。

全体会の開催 2回開催

平成17年12月16日および平成18年4月26日

中部学院大学関キャンパス（関市倉知4909-3）にて

各分野の専門家からなるワークショップ委員13名で構成

児童グループ 2回開催 中部学院大学関キャンパスなど

高齢者グループ 1回開催 同上

障害者グループ 3回開催 身体障害者療護施設いちの杜ハートフル
（関市市平賀大知洞566番地）など

2 . 拡大ワークショップの開催「福祉サービスをかしこく利用するための市民フォーラム」

平成18年7月8日（土）

中部学院大学各務原キャンパス（各務原市那加甥田町30番地1）

対象者：一般市民 参加者46名

内容 基調講演「これで大丈夫 少子高齢社会の暮らしとサービス」

滋賀県大津市市役所元高齢福祉課主幹 福井英夫氏

研究報告「ここが知りたい、福祉サービスのツボ」

高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉の分野別にグループワークショップ成果を報告し、参加者と共に拡大ワークショップを行い、提案内容をさらに深めた

3 . 福祉なんでも相談センターの開設準備と運営

相談窓口の開設準備 平成18年4月

設置場所 各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル

対象者 福祉サービス利用者

相談の方法 電話相談と直接面談による相談

電話相談を受けると共に、気軽に立ち寄れる場所で相談センターを設置する

パンフレット等で相談センターのPRを行う。

相談に応じる専門支援アドバイザーを設置した。

相談の内容：*サービス利用の手引き

*サービス利用の個別相談・アドバイス

*サービス事業者に関する情報提供

*サービス事業者、サービス従事者からの相談対応

利用者支援専門アドバイザーの設置 2名

4 . インターネットによる相談・情報提供システムの整備

ホームページを全面改装して、情報の提供を行った。また、携帯メールなど、気楽に相談できるシステムをつくる。

ホームページアドレス：<http://www.be-suke.com>

5 . グループホーム利用者家族などへの啓発活動

グループホーム家族セミナーの開催（第一回～第五回は独自事業）

グループホーム利用者の家族を対象に、認知症に対する理解やグループホームの理解を促進した。あわせて、家族の役割など、ホームと一体になった援助によって、利用者のノーマライゼーションの実現について考えた

第六回 「介護保険制度改正とグループホーム」

平成 18 年 6 月 10 日（土）

岐阜大学医学部看護学科（岐阜市柳戸 1 - 1） 参加者：28 名

講演「介護保険制度改正とグループホーム」

< 講師 > 岐阜県グループホーム協議会会長 世一 修 氏

岐阜県グループホーム協議会理事 小野木 健夫 氏

交流会 & 個別相談 家族からの相談に対応した

第七回 「認知症になっても安心できる生活の場を探してみませんか」

平成 18 年 9 月 30 日（土）

中部学院大学関キャンパス（関市倉知 4909-3） 参加者：70 名

講演「認知症対応グループホームの選び方 - 外部評価の活用法 - 」

認知症介護研究・研修東京センター サービス評価推進室講師

平林 景子 氏

シンポジウム

「グループホームをどのように選んだか～家族からの体験談～」

個別相談 家族からの相談に対応した

(2) 活動の成果（開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等）

1. 情報整理のためのワークショップの開催
2. 拡大ワークショップの開催「福祉サービスをかしこく利用するための市民フォーラム」
参加者 46 名
高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉の分野別に行なったワークショップによってまとめた情報項目を、拡大ワークショップにて研究成果として発表、提案内容をさらに深めた。その成果を分かりやすく整理し、冊子『福祉サービスをかしこく利用するためのチェック項目』を発行、福祉サービスを利用される人に対して配布している
3. 福祉なんでも相談センターの開設準備と運営
相談に応じ、実績を積み重ねている
4. インターネットによる相談・情報提供システムの整備
ホームページを改装し、相談・情報提供に対応するシステムを整えた
5. グループホーム利用者家族などへの啓発活動
参加者：28 名（第六回）、70 名（第七回）
7 回にわたる家族セミナーを開催する中から、2ヶ所のグループホームが家族会を結成するに至った。他にも結成にむけて動いているグループホームが数ヶ所ある

(3) 今後の課題

福祉サービス総合相談センターの運営

前年度準備してきた相談センターを本格的に活動させる。

相談を受ける対象として想定している層

県内一円の県民

福祉サービス利用者

福祉サービス事業者、従事者

「実験地区」の設定とサービス内容の調査、情報収集

相談に応じて情報提供やアドバイスをを行うために、情報収集を行う。

その場合、実験地区として岐阜市・各務原市を設定して、重点的に情報収集を行う。

また、扱う情報として、ニーズの高い高齢者住宅等、介護保険サービスを中心に蒐集する。

利用者支援アドバイザー「びーすけっと相談員」の養成

利用者支援専門アドバイザーの指導のもとで日常的な相談に対応する「びーすけっと相談員」を養成するために、講座を開催する。

講座を修了した「利用者支援アドバイザー」の役割

A) 県内各地において福祉サービスの上手な利用法を普及する。

B) 福祉サービスに関する情報提供と相談に応じる。

C) 福祉サービスに関する苦情を収集する。

利用者支援アドバイザー活動手引書の発行。

相談の充実と情報提供

相談センターが利用者支援専門アドバイザーによる電話相談と合わせて、養成した利用者支援アドバイザーを事業所などに派遣して、苦情相談やサービス利用相談に応じる。

グループホーム利用者家族の組織化

家族セミナーの開催をさらに重ね、家族の意識を高め、家族会として自主的な活動ができるように支援する。家族会の交流を促進する。また、グループホーム単位の家族会の組織化を促進する。